

太陽電池発電設備による 感電事故防止について

経済産業省 商務情報政策局
産業保安グループ 電力安全課

太陽電池発電設備による感電事故防止について

- 太陽光パネルは、災害等によって浸水・破損した場合でも発電を行う可能性があるため、破損箇所等に触れると感電する危険性があります。
- 太陽電池発電設備が普及する中、そうした危険性を地域住民に知っていただくことは極めて重要と考えております。
- これまで、経済産業省としては、太陽電池発電設備の感電事故の予防について知っていただくため、台風シーズン前や災害時に、ホームページやツイッターを活用した情報発信を行うとともに、発電事業者や施工業者といった業界団体等に対し、災害時における太陽光パネルの取り扱いに関する注意喚起を実施してきました。
- 地域住民への周知をさらに進めるため、自治体の皆様におかれても、地域住民の方への周知をお願いいたします。

【参考】浸水・破損した太陽電池発電設備



©



危険防止

太陽電池発電設備の保守点検の重要性について



**危険です！保守点検不備による
太陽電池発電設備の重大事故。**

近年、強風の際に太陽電池発電設備のパネルが飛散、架台が倒壊するなどの事故が発生しています。なかには飛んだパネルが近隣の住宅へ被害を与えた例も。万が一、他者に被害が及んだ場合には、刑事責任や民事責任が生じる可能性があります。




破損したパネルに触れると感電するおそれがあります。
破損した太陽電池発電設備に光が当たっている場合、パネルや電線の接続部、架台等に触れると感電の原因となります。

破損したパネルを発見したら、以下の点にご注意ください。

パネルや設備には
触れない



周囲の方へも注意の
呼びかけを



施工会社やメーカーに
対処を依頼

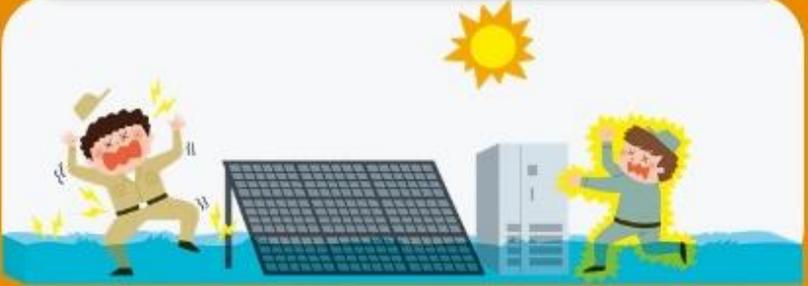


被害を未然に防止するために・・・
パネルや架台のねじのゆるみ等がないか、変形や破損はないか等を定期的にチェックするなど、適切に維持・管理することが事故の未然防止につながります。

図1 事業者に対し、パネルの飛散や浸水を防ぐための設備の点検強化等を依頼（経済産業省HP、6月4日）

太陽光発電システムの 水害時の 感電の危険性

について



水害などで水没・浸水した太陽光発電システムに**接近**や**接触**することにより

感電するおそれがあります！

- 台風や大雨、局所豪雨の影響により、太陽光発電システムが**水没・浸水**し**破損**している場合があります。太陽光発電システムはこのような場合でも**光が当たれば300V以上の電気を発電**をします。
- 水没・浸水をした太陽光発電システムに**接近・接触**すると**感電**するおそれがあります。
- 風水害の被害にあった太陽光発電システムに**むやみに近づかず**に太陽光発電システムの**事業者や管理者へ連絡**してください。

図2 水害時の感電の危険性を呼びかけるチラシ（経済産業省HP、7月3日）
※国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が作成

水没・浸水した太陽電池発電設備に近づくと非常に危険です。

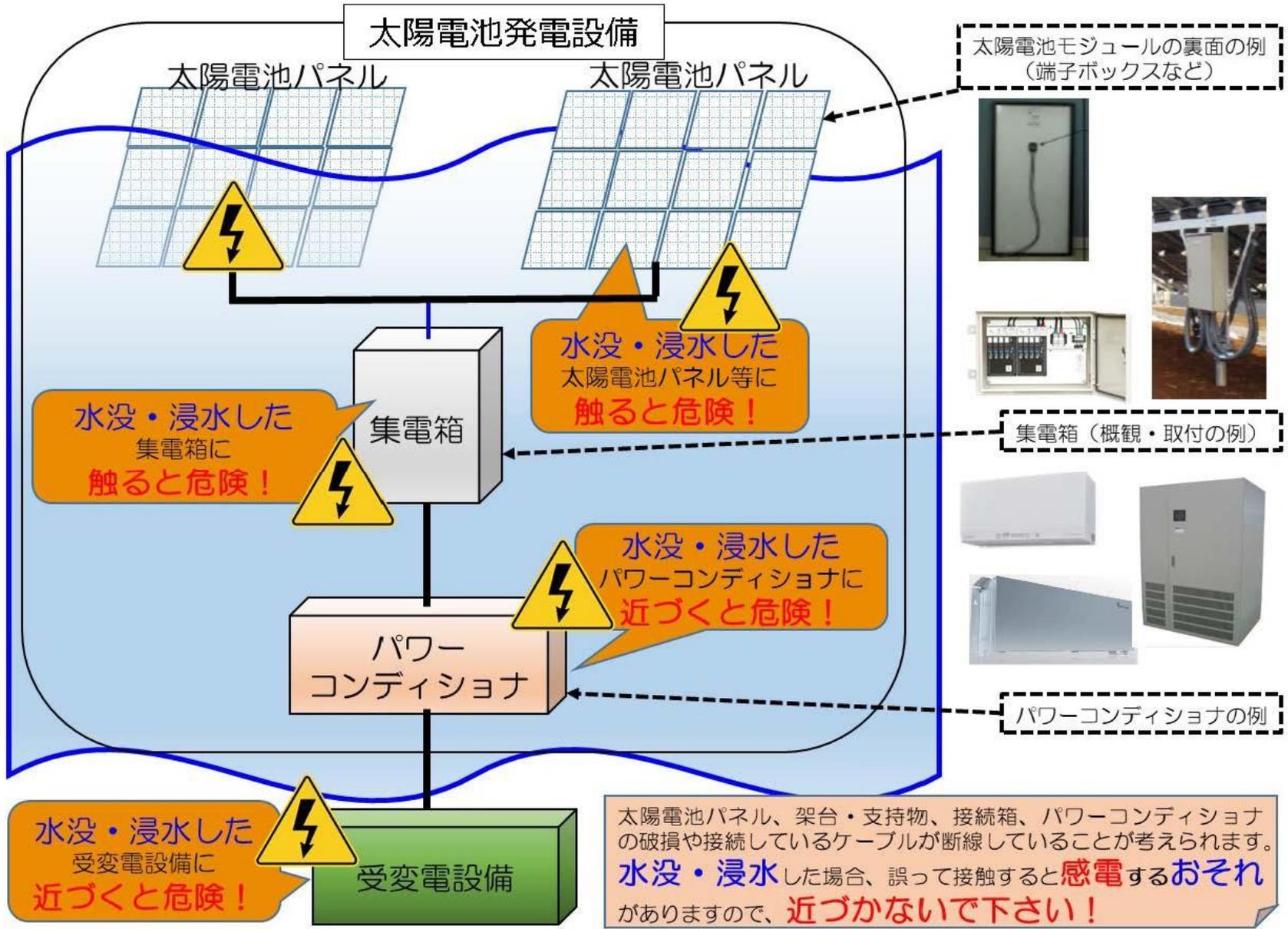


図3 浸水時に感電のおそれがある設備についても周知 (経済産業省HP、6月4日)

感電事故防止についてのホームページ掲載先について

- 経済産業省電力安全課や各産業保安監督部のホームページに掲載しています。
- また、（一社）太陽光発電協会のホームページでも、被災設備の撤去等に関する手順や留意点を掲載しています。



経済産業省

- 太陽電池発電設備による感電事故防止について（一般向け）
https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2019/7/20190703.html
- 太陽電池発電設備による感電事故防止について（設置者向け）
https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2019/10/20191031.html



- 太陽光発電システムの水害時の感電の危険性について
<http://www.jpea.gr.jp/topics/190531.html>
- 太陽光発電設備の水没による感電防止及び、被災設備の点検・撤去に関する手順・留意点について（電気工事士など、専門知識のある者向け）
<http://www.jpea.gr.jp/topics/190703.html>